

チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	災害時の要配慮者・避難行動要支援者の安全な避難誘導、福祉避難所への収容について	四国 愛媛県 松山市
アイデア名 (注1) (公開)	要支援者から考える減災		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	Code for DOGO	
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム	
メンバー数 (公開)	7名	
代表者情報	氏名 (公開)	中川祐治
メンバー情報	氏名 (公開)	平田浩一、佐々木隆志、北村洋三 兼久信次郎

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

（1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

本活動は、災害時の要配慮者・避難行動要支援者へ支援する側の立場として、要配慮者・避難行動要支援者の中でも障がい者に重きをおき、すでにある ICT を活用したプラットフォームを利用出来る様にレクチャ並びにその方に応じた設定などの支援を行う活動を展開します。

a)

要配慮者・避難行動要支援者などの当事者による災害予防活動を推進する活動を行う。

災害予防活動を推進するひとつとし、OpenStreetMap（注 1）の機能を活用し、日常生活の中でも行えるレベルの手軽さでスマートフォンのアプリ（たとえば位置情報を付加した対象物の写真をアップするだけで、写真を撮った位置に応じ地図に写真が表示され、対象物の最新状況を画像で確認できる等）にて当事者に有効なデータを構築する作業を、当事者と一緒に行うマッピングパーティ（注 2）を実施する。その構築したデータは、オープンな形で公開するものとする。

b)

また、災害発生時には、スマートフォンやスマートスピーカーが有する Google アシスタント（注 3）機能を活用し、デバイスにむかって要配慮者・避難行動要支援者がしゃべりかけるだけで、支援者に対し要配慮者・避難行動要支援者が置かれている情報をメールで送る安否確認や、要配慮者・避難行動要支援者、その方に応じた災害時に行う行動のチェックリストを読み上げる設定を支援する。

（注 1）

OpenStreetMap(OSM)は、道路地図などの地理情報データを誰でも利用できるよう、フリーの地理情報データを作成することを目的としたプロジェクトです。誰でも自由に参加して、誰でも自由に編集でき、誰でも自由に利用する事が出来ます。

出典：openstreetmap.jp

（注 2）

歩いて街の情報を集め、インターネット上で自由に編集できる地図「オープンストリートマップ」に書き込むイベント。災害時に使える施設や避難経路、バリアフリー、観光スポットなど特定のテーマに沿って情報を集め、共同で地図を作成する。2004年に英国で始まり、日本を含む世界各地に広がっている。

出典：知恵蔵 mini

（注 3）

Google アシスタントは Google が開発した AI アシスタント。2016 年 5 月の開発者会議で発表された。＜中略＞ Google アシスタントは双方向での会話が可能である。

出典：ja.wikipedia.org

(2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

松山市からの課題は、

「松山市では、南海トラフ巨大地震などの大規模な自然災害の発生が懸念されており、各種防災対策を行っている。その中でも要配慮者・避難行動要支援者は自ら避難することが困難なことが多いため、要配慮者・避難行動要支援者の避難支援は自助及び地域の共助が必要である。そこで、各種データから要配慮者・避難行動要支援者の避難場所や

避難経路などを含めた円滑な支援方法などを市民と協働で検討したい。」

とされている。

災害時に要配慮者・避難行動要支援者の方々を支援する事は重要です。

ただ、ひとたび災害が起これば、要配慮者・避難行動要支援者、支援者、すべての方が被災者となります。

人的被害を必要以上に拡大しない為にも、要支援者側も日頃から防災意識を持ち、減災に取り組む事が重要と思われる、要支援者側からの視点で課題を抽出する事により、社会として減災が目指せる取り組みになると考えます。

要配慮者・避難行動要支援者、支援者、と分けて物事を考えるのではなく、災害時の要配慮者・避難行動要支援者など支援が必要な方々が、市民と一緒に、自ら災害予防の行動を起こすことにより、日頃から防災思想を意識する事が必要です。また、双方一緒となって取り組む事により顔の見える関係を構築する事が出来、災害による人的被害、経済被害などを軽減する減災にもつながると考えております。

※ <要配慮者>

高齢者、障害者、乳幼児等は防災施策において特に配慮を要すると定義。

※ <避難行動要支援者>

ひとり暮らしの高齢者

ねたきり高齢者

身体に障がいのある人（身体障害者手帳 1～3 級）

知的障がいのある人（療育手帳所持者）

精神に障がいのある人（精神障害者保健福祉手帳 1～3 級）

難病患者（特定医療費（指定難病）受給者証所持者）

など。施設等入所者は除く

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

取り組み活動ふた項目別に記載

それぞれの項目とも Code for DOGO メンバーが、地域の障がい者支援団体・当事者と一緒になり進める。

a)

Code for DOGO メンバーと障がい者団体によるマッピングパーティを実施し、位置情報を付加し対象物のデータベースを構築して行く。

二か月に一回のペースで、現在まつやまバリアフリーマップ（注 4）に掲載されている箇所の写真を撮ってアップロードし情報を更新して行く。

（注 4）

まつやまバリアフリーマップ <http://m.hecoman.com>

b)

まつやま防災マップ（注 5）に掲載されている情報の中から、災害時に当事者が必要となる優先の高い情報を抽出し、アシスタントとの会話形式のデータに起こし直しアシスタントに登録する

（注 4）

まつやま防災マップ

<https://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/bousai/keihatu/bousaimap.html>